

さわやかハイク・個人山行報告書

通算山行NO	個人山行	報告者	石和加代子
年月日	2010年10月11日(月・体育の日)	2万5千	仁科
山名	十郎左エ門(953m)～長九郎山(996m)		
体力度=3・普通 技術度=3・普通 藪漕難度・上り=難しくない、下り=難しい 地図読み度=4・やや難しい 道標=一般道ある 駐車場=ある トイレ=ない 展望度=長九郎はよい 三角点=両峰共に三等三角点			
地図読みトレーニング			
コースとタイム	下土狩発6:00—仁科峠—白川林道ゲート前発8:00 西尾根—十郎左エ門頂上11:05—長九郎山頂上12:25～13:00—北西尾根—林道ゲート前着15:35—山の家—土肥峠—下土狩19:10		
標高差	上り 白川林道ゲート前約210m～十郎左エ門953m=約743m 下り 長九郎山996m～白川林道ゲート前約210m=約786m		
参加者	L 後藤隆徳・井上弘二郎・村上美恵子・石和加代子		

朝焼けの富士山を見て、それを背に伊豆半島を南下。くねくね道を幾度も曲がって、山奥深く入り込む。ここはいったいどこ？

今日は渡された地図から山登りをする、久しぶりに地図読みトレーニングとなった。赤沢出合の橋にはカギがかけられていて、手前の慰霊碑のある広場に車が2台とまっていた。(実はこの車は下山後、大いに関係することはこの時分からなかった)

(広場の慰霊碑は戦時中、中国・朝鮮人が強制連行・労働され亡くなった方=碑には殉職者(??)とある=の慰霊碑だった)

(1976年に建立されたもので裏には当時、革新系の市長だった、沼津市長・井手俊彦、三島市長・長谷川泰三、日中友好協会・酒井郁造彫刻・堤達男氏の名が刻んである)



(本来これらは国で行うものと思うが建てたのは、慰霊碑建立実行委員会となっている。また、HPで検索すると関係資料は多い。しかし、国とか県とか公的に記録は残

っていない→→→残していないのが事実のようだ)

赤沢にかかる橋を渡って、すぐに右の尾根に入り込む。いきなり急登だ。落石ならぬ落木が村上さんを襲う。30分ほど登るとゆるくなる。なるほど等高線の間隔も広い。ヤブこぎをして、(途中で後藤さんがGPSを拾った)3時間ほどで1つ目の山、十郎左エ門に着く。

手作りの看板と三等三角点があったが、林の中で展望は少し。(この山名表示板は二枚あり、一枚は土肥のYさん、一枚は下田のOさんが作った。ただ、二枚は不必要だ。また、右の物は953.0mだが、正式には953.7m。小数点以下表記するなら正確な表記が当然でしょう)



Yさん作

Oさん作

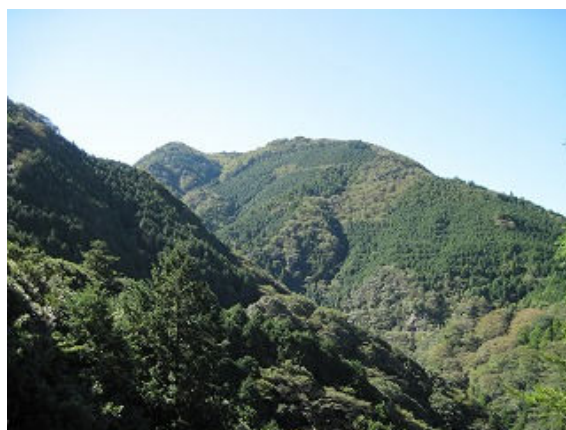


確認だけして、先に進む。地図では直角くらい方向を変えるはずだが、登ってきた道を少しもどってから別の尾根を下ることになった。1時間強で2つ目の山、長九郎山に着く。ここにも三等三角点がある。やぐらの高い展望台が設置されていて、休むには暑いかなと思いながら急階段を登ると360度の景観が広がっていた。西・南・東に海、北方には富士山、天城連山、先ほど行った十郎左エ門の頂上がとんがって見える。



十郎左エ門西尾根

長九郎山





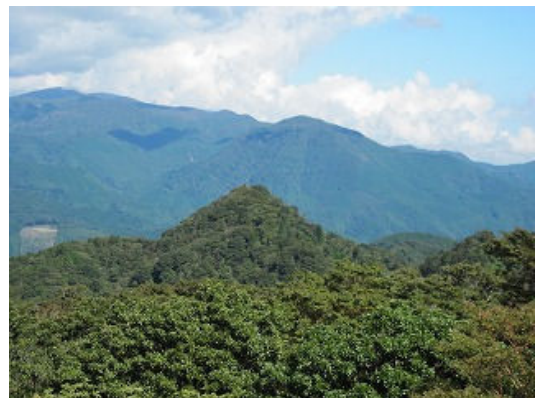
猿山遠望

先客がゆったりとガスをつかって昼食を摂っていた。私たちは昼食休憩を30分ほどとる。地図を見ながら、「この750mあたりで左方へ下る尾根を間違えないように…。なにもするしかないから標高が頼りだなあ」なんて後藤さんと井上さんが検討していた。



ヤグラで地図読みお勉強

十朗左エ門（手前）と登り尾（後ろ）



長九郎山頂上

さあ、北西尾根を下ります。初めから、「こっちの尾根じゃなくて、あっちの尾根」しばらく進んでから振り返り「あっちに鉄塔が見えて、むこうに尾根があるから…」という具合に確認しながら下る。(上部は快適だったが下部はちょっとヤブっぽい)林道に出たら、しばし次の道を探る。あらためて地図と尾根の山容を見比べる。女性陣はちょっと休憩。これからがなかなかの手ごわい下りとなった。私は「おなかのすくさんぽ」というエネルギッシュな男の子が動物たちと山であそぶ絵本を思いだしていた。まるでキンクマンのようにつかんだ太い木をなぎ倒し、パキパキ、ボキッ、ズルズルという状態。山の夕暮れは早い。後藤リーダーから叱咤激励がとぶ。赤茶色の異様な石床がならぶ川を渡り、だいぶおりてきた。

赤沢歩道の立て看板があり、めでたく出発地点に戻ることができました。下り約2時間半。予定通りの尾根歩きができましたが、北西尾根の林道からは、下ってすぐ左の尾根の方がよかったとの後藤リーダーの後評でした。地図・標高・コンパスを使いこなし、山容を観察することが求められた山行でした。

ところで後藤さんはとても良いものを拾いましたが、いっぽう私は未使用のストックの先のゴムサックをなくし、井上さんは地図を落とし、村上さんは体調をおとしました。これも観察力のなさから生じるのでしょうか。

ここまで来たら、あの露天風呂に入らなくちゃというおすすめで、大沢温泉山の家の化粧の湯に向かう。川畔でなかなか趣がある。洗い場では木の実が落ちてきた。すぐそこが山。猿が出てきてもおかしくない風情です。日没時間を見計らって温泉を出たのですが、海に沈む夕日は残念ながら見ることはできませんでした。

(広場に帰るとワイパーに置き手紙。GPSを拾ったら連絡下さいの旨。翌日連絡をすると、何と昨日下田の鈴木秀伸さんと一緒に上ったワタナベさんという。実は今回久しぶりに十朗左エ門に行くので、鈴木さんに連絡しようかと思った次第。まあ、ご縁があった訳です)

注・文中()は後藤補足です。



大沢温泉・山の家(500-) 21:00まで



皆さんガイガイ
ドライバーは
ノン・アルコールでした(トホホ)